

13期生HCD（ホームカミングデイ）の一日

皆さんこんにちは、平成12年3月に始まりましたHCD、あれから12年、今年も3月18日（日）の本科第56期生の卒業式に第13期卒業生の皆さんが招待されました。

去年は、3.11 東日本大震災の影響で参加者は例年の二分の一から三分の一程度でありました。今年は、北は北海道恵庭市から南は鹿児島県種子島まで陸110名（家族73名）、海38名（家族29名）、空50名（家族35名）合計198名（家族137名）の方々が参加しました。

この中には、防大卒業以来43年ぶりという方が約20名、20～30年ぶりという方が半数以上おられて、懐かしさと大きな変化に驚きを隠せない状況でありました。

0800 開門のところ 0730 前から続々と正門前に集まり始めましたので、早速皆さんにインタビューをしてみました。

馬堀海岸の「やまに旅館」に宿泊した空H氏は「猿島まで遠泳したことを思い出し、女房に話をしていたら涙が出てな」と、陸H氏は「ずいぶん変わったが、防衛学館は昔のままだ、酒を飲んでの帰りに戦車に立ち寄ってな・・・したんだよな」と昔を語る人。

陸〇氏は、「横須賀中央からタクシーを使ったが、左側が家ばかりで海がまったく見えず、どこがどこかさっぱりわからない、馬堀海岸は海岸ではなくて住宅ではないか。それに本館が近代建築の髓を集めた素晴らしい建物になっており、風格が漂っている。」と大きな変化に驚きと喜びを感じていました。



① 馬堀海岸付近

② 正門から本館

この日は昨日の激しい雨も上がり、午前中は曇り、午後にはわか雨まじりという生憎の天候ではありましたが、全行事が晴天行事として予定通り行われました。

受付も順調に終わり、0910 いよいよ式典会場へ移動、ご婦人を中心とするご家族の方々140名は式典会場で、卒業生はAVルームで式典を見学しました。

第56期生は、護衛艦「あたご」と漁船の衝突事故などの影響を受けたのか、入校者は451名と例年になく少なさではありましたが

が、中途退職者が少なく、任官辞退者も4名とこれまた例年にない少なさであります。

式典は、・・・卒業証書の授与、学校長式辞、総理大臣訓示、防衛大臣訓示、来賓祝辞、答辞、任命・宣誓式・・・の順に進められました。学校長から式辞の中で「13期生の紹介と功の労い、学生を励ましていただくことに感謝する」旨の温かい言葉をいただきました。

野田総理大臣は「①幹部自衛官として国を守る責任の重さを持ち、②世界に羽ばたく気概を持ち、③国民とともにある自衛隊を育成してもらいたい」との三つの要望について学生たちをしっかりと凝視しながら涙があふれんばかりの熱い思いで訓示していました。その御訓示には会場の全員が胸を打たれたのではないのでしょうか、ご退場の際に拍手喝さいとなりました。

AVルームで総理大臣訓示を聞いていた13期生からは、訓示終了とともに期せずして大きな拍手が沸き起こりました。また、式典終盤の学生歌斉唱の際には、56期卒業生と声を合わせて歌っていた姿が印象的でした。



④式典会場家族



⑤式典光景



⑥AV ルーム卒業生

この会場にいたご婦人方からは

空 K 夫人は「咳払いひとつ聞こえないあの厳粛さ、節度ある学生たちの動き、これほど威厳あふれる式を見たことはありません。確かな子供が育ちますよね。」と、陸 M①夫人は「我が国の防衛はしっかりできると確信しました。主人もこうだったのかと惚れ直しました。」と、陸 M②夫人「野田総理のお言葉には感動しました。ご退場される時、会場から一斉に拍手が起こりましたが、あれは感動とエールだったのでしょうか。」と、また多くのご婦人から「帽子投げの

伝統が確立したのは13期生から」と言われました。そうでしたか。



⑦儀仗隊

その後、代表者による慰霊碑献花が行われました。

13期生は、殉職者5名（陸1名、海2名、空2名）、一般物故者が30名おり、それぞれのご冥福をお祈りしました。



⑨慰霊碑献花

1320 からグラウンドで卒業生に対し、3 学年以下による観閲行進が行われました。あいにくのわか雨で立ち見になるかと思いましたが

が、ご婦人方はきちんと座って見学されました。学生隊指揮官は女子学生で、堂々と胸を張りしっかりした声で指揮をとっており、見学者全員が「おーっ」と感嘆の声をあげておりました。



⑩雨の見学風景



⑪観閲行進



⑫観閲行進

陸 M 氏は、「学生隊指揮官が3年の女子学生で、卒業生の首席も女性か、いずれ幕長も女性という日が来るのだろうか、男子学生、頑張ってくれよ」と、空 W 夫人は「今の世の中と一緒に、女性がリードする立場になっている。防大も意識改革が進んでいるのでしょ
うね。また、この雨の中でも、微動だにしないで立っているし、整

然と行進している、遅しいです。主人は毎日飲酒していますが、飲んでも飲まれないのはこういう厳しい生活を学生時代にしたからなのでしょうね。」と、海 K 夫人は「今の子供たちの先を心配していましたが、この学生さん達には全く不安を感じない、頼もしさだけです。息子は防大に行って貰いたかった。娘を防大卒業生に嫁がせたいですね。」

と、大先輩ならではの素晴らしい所見を沢山頂きました。

卒業行事も終わり、6台の大型バスで横須賀平安閣に移動、1500から盛大に大懇親会が行われました。43年をタイムスリップし防大時代の若さに戻った時で、場内は終始割れんばかりの大声と笑い声が続きました。

齋藤同窓会会長も午餐会終了後直ちに会場に駆けつけ、祝辞を述べました。祝辞では、1学年時の「食当」での失敗談を披露し、当時2学年の13期生にコッテリ絞られたことなどをユーモアたっぷりに話し往時を偲びました。また、同窓会50周年事業として、防大60周年に当たり、榎学校長のメモリアルゾーン整備事業の支援を行うことについて紹介しました。

予定されていた2時間もあっという間に過ぎ、逍遙歌で名残惜し

みながらの閉幕となりました。式場を離れ、自宅に帰った皆さんは玉手箱を開けた浦島太郎になったことでしょう。



⑬ 齋藤同窓会長の祝辞

⑭懇親会



⑮逍遙歌

陸 S 氏は「この行事は何よりも20歳に戻り、オイと言って、肩を叩ける。あの頃に戻っちゃうんだよ。これが良いんだよな。その一方で、射撃で耳が遠くなっていて、肩をたたかれないと、呼ばれても分かんないから声がかくなっちゃうんだよ」と、空 I 氏は「皆が第2の定年を迎えるこの時期にこういう企画があるのはうれ

しい。子供達も自立し、色々な面で余裕ができ、またさみしくなるこの時期が良いね」と、陸 S 夫人は「この会に来るまで誰か知っている方はいるのかしらと不安でしたが、BOC、AOC 時代に一緒だった沢山の御婦人方と会え、お話ができて本当に楽しかったです。この行事には後輩の方々も必ず御参加したらよいと思います。」と、このHCD行事が、家族を含め同期の絆を深め、かつ後輩たちの成長を見守る良き機会であることを確信できるコメントをいただきました。

終わりになりますが、本行事が盛会裡に勧められましたのは、13期生準備委員の方々の2年間にわたる周到な準備と、防衛学群長以下防大関係者の積極的な支援のおかげであります。この場を借りましてお礼申し上げます。大変お疲れ様でした。(同窓会本部事務局HCD担当)